

ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

6月26日に梅雨入りしたと発表がありました。記録的な遅さだそうです。

さて、6月16日には赤磐市中央公民館で2019年度の年次総会が13名の会員の方の出席で開催されました。前年度の活動報告や会計報告に続き、新しい年度の活動報告、新しい企画案が協議されました。総会に続いて、橋本さんが講師となり、身近な自然観察会の進め方についての話がありました。午後は、山陽ふれあい公園に場所を移して、昼食後の晴天の中で1時間、身近な場所で、近所の子どもたちと一緒に自然観察会を繰り返し行うことの大切さを、手作りの図鑑を使った自らの体験を元にして話していただきました。

今後、自然観察会や中国地方5県の交流会、新年会などを予定しております。これからも会員の皆様と一緒に、自然観察を通じて自然の不思議さを実感しながら充実した楽しい時間を持ちたいと思っております。皆さまの参加をお待ちしております。

## 年次総会の報告 別紙資料、議事録

- 開催日：2019年6月16日(日)
  - 報告事項：2018年度活動報告
  - 議決事項：2019年度の活動  
県外研修(自主活動)の実施  
共通書式を使った名刺作り
  - 中国地方5県交流会(島根県)の日程
  - 第14回自然観察会のお知らせ
  - 議事録
- ミニ旗製作費の会費からの支出  
会則改正(総会の開催日の規定削除)

## 生物多様性の勉強会—生物多様性に関する「世界の動き・日本の動き」

- 開催日時：2019年7月11日(木)  
18:15~19:30(参加無料)
- 会場：岡山市北区本町6-30  
第一セントラルビル2号館5F小会議室
- 講師：道家哲平さん(日本自然保護協会)
- 内容：自然観察活動から世界の動きまで
- <http://bd20.jp/2019-07-12/>
- 申込み(先着順、上記のホームページで)

## 中国地方5県交流会と第13回自然観察会のご案内(希望者は西本まで)

- 開催日：2019年10月26日(土)、27日(日)(雨天決行)
- 集合：12時、国立三瓶青少年の家
- 会費 7,000円(1泊3食)
- 日程(詳細は別紙)  
1日目：全国植樹祭、指導員40周年NACS-J  
コラボ企画、恒例交流会  
2日目：三瓶山を歩く

## 第14回自然観察会のお知らせ(担当は大森隆志、参加希望者は西本まで)

- 開催日時：2020年3月15日(日)  
10時~14時(雨天決行)
- 岡山県の生物多様性のホットスポットを訪ねて  
(No.2)草間台の春植物—その1
- 参加者は西本まで連絡してください。
- 集合 午前10時 ふれあいセンター満奇
- 内容：ユキワリイチゲ、セツブンソウ、アズマイチゲなど石灰岩地特有の植物を中心に、春先に咲く花を観察する予定です。
- 持ち物 昼食、飲み物、筆記用具、雨具

## 会費納入のお願い

当会は、会費が年度制となっています。未納の年度を明記して、会費を納入してください。総会に欠席された方は、下記の郵便局で備え付けの用紙で、口座振り込みにより会費や寄付を納入してください。活動資金として活用させていただきます。

- ゆうちょ銀行 記号15440 番号38433761 NOI岡山 (手数料は各自でお願いします)
- 他金融機関からの振り込み 店名五四八 店番548 普通預金 3843376

2019年6月16日(日)、前日の雨天に打って変わって、時々晴れ間がのぞく良天のもと、午前中の総会に引き続き、第12回自然観察会が開催され、9名のメンバーが集まりました。

今回は、橋本さんが講師となり、これまで実践してきた観察会の事例紹介による座学(写真1)と、赤磐市中央図書館の人工の池を使った観察会(写真2)、午後からは、山陽ふれあい公園にフィールドを移し、会員の皆さんも実際に子供たちを集めて指導できるよう、実際に観察会を行うためのポイントなど、アドバイスをいただきました(写真3)。

今回の研修のポイントは、

- ① フィールドは小さくても工夫次第で観察会ができる。
  - ② 事前準備(調査や資料の準備等)を行うことで知識と自分の思いが深まる。
  - ③ 細かな種名よりも、(子供たちにとって)生態や特徴が重要である。
  - ④ そして、マイ図鑑を持つこと。
- だそうです。

今回、紹介いただいた赤磐市中央図書館前の人工の池での観察会では(写真2)、アメンボ、ヤゴ、ミズムシ(フウセンムシ)、マツモムシ、ガムシなど身近なため池などでもこれだけの生き物がいること、そして、このわずか5~6種類の昆虫だけでも、その生態や特徴などを説明するだけで、参加者たちは興味を持ち、1時間程度の観察会が可能となるとのことでした。

また、山陽ふれあい公園では、実際に昆虫を採取し、その特徴などを確認し、図鑑で同定を行いました(写真4)。今回は確認することができませんでしたが、キタキチョウとツマグロキチョウとの違いに触れ、キタキチョウ100匹捕まえると、そのうちにツマグロキチョウが含まれることがあるという話をお聞きしました。ツマグロキチョウは、形態としては、キチョウとよく似ており、前翅の先端がとがる点でキチョウと異なるとのことでした。

研修会の最後に、橋本さんから、各地域にある公民館と連携した講習会の開催や、総会後の研修会を、実際に公民館と連携して会員が実施する講習会を開催してはどうか、などいくつかの提案がありました。

この活動のポイントである公民館は、当時の担当者から、公民館の役割として、地域の自然や地域住民の関わりを広めるだけではなく、地域の指導者を育成することも目的である、とのこと橋本さんが感銘を受けたからだそうです。

総会並びに、今回の観察会の準備、観察会の当日は、前日の降雨による内容の変更を余儀なくされるなど、いろいろとご苦労なされたかと思いますが、内容の濃い講習会になりました。橋本さん、ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。



写真1. 表面張力の実験。洗剤を入れたとたん、水面に浮いていた1円玉が沈んだ。



写真2. 図書館脇の人工の池でも、簡単に身近な生きものを観察できる。



写真3. 観察のポイントを知らせるには、自作した資料を使うことも大切。



写真4. 公園の法面では、危険も少なく、たくさんの花が咲いていて、捕まえたチョウをじっくり観察できた。

参加者 石川和人・大森隆志・勝部晴美・清水俊典・谷合繁造・永富壽・西本孝・橋本智明・福元隆三・藤本巨・村上勇・山田勝・山根一郎(13名)